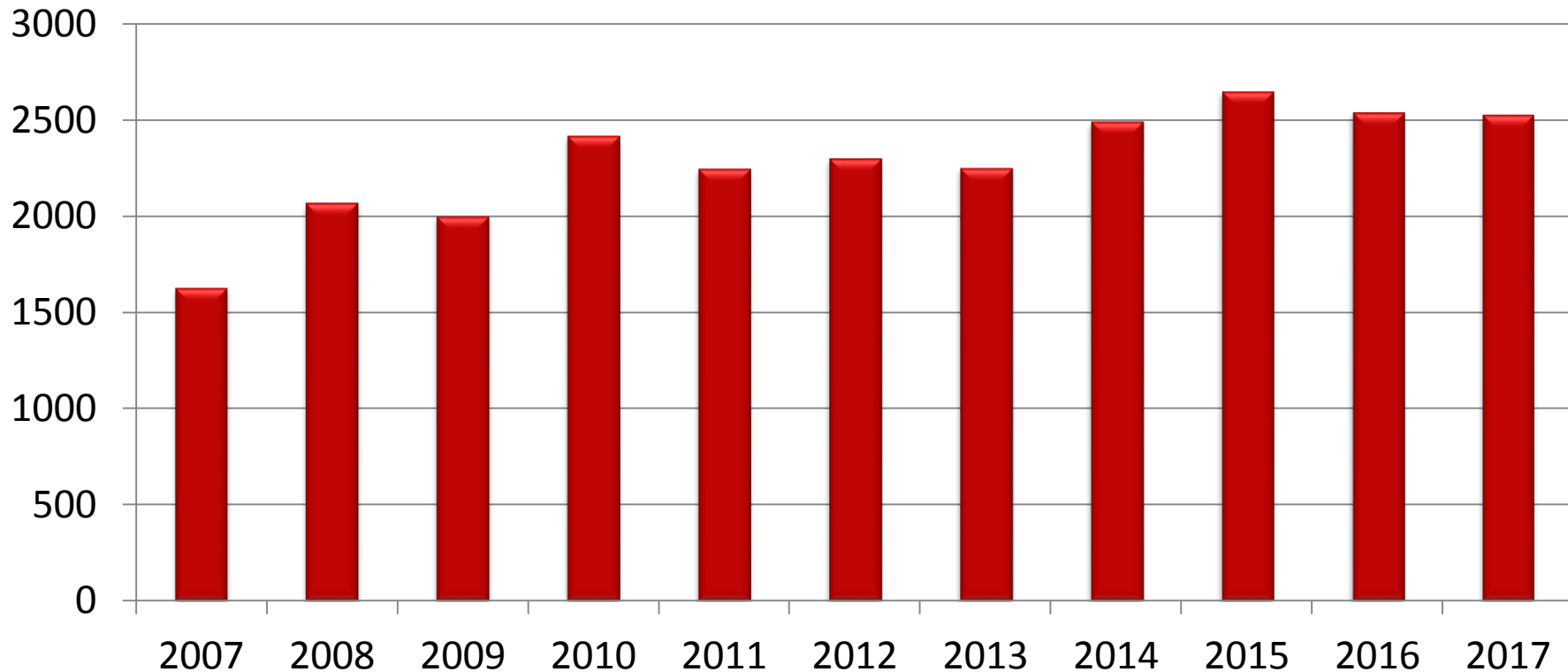


【2007年～2017年院内がん登録数】

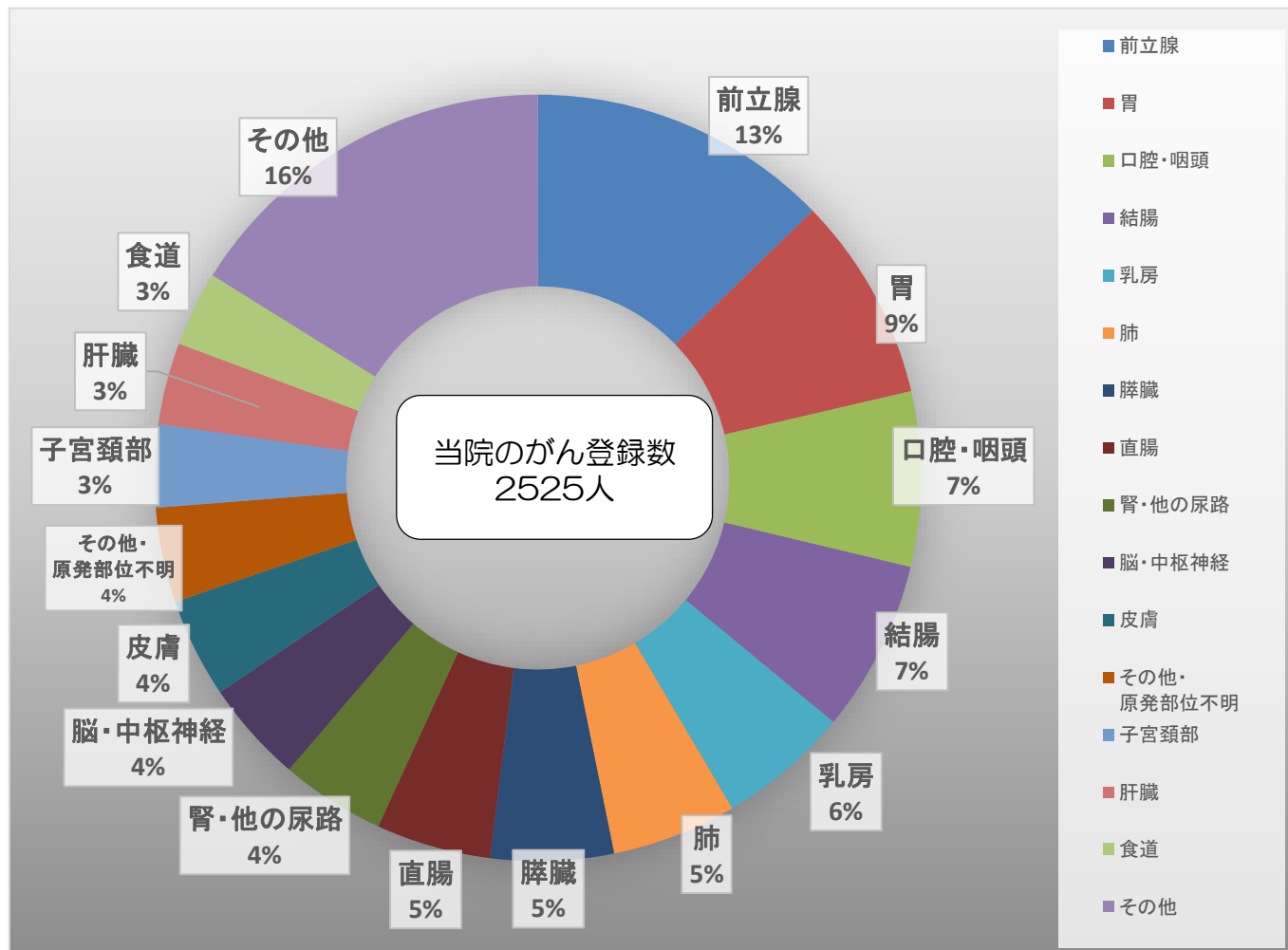
- がん診療連携拠点病院である当院においてがんと診断されたり、治療されたりした全ての患者さんの情報を、診療科を問わず病院全体で集めて、院内がん登録として診療データの公表を行っています。
- 当院では2007年より院内がん登録を開始しており、2017年時点では年間約2,500件以上の実績があります。



横浜市立大学附属病院における院内がん登録件数

【2017年症例部位別院内がん登録割合】

2017年院内がん登録症例は前立腺がんが13%と最も多く、次いで結腸がんと直腸がんを合わせた大腸がんが12%で2番目、胃がんが9%で3番目に多くなっています。



その他 部位内訳
胆嚢・胆管
子宮体部
悪性リンパ腫
白血病
卵巣
膀胱
骨・軟部組織
甲状腺
喉頭
その他の造血腫瘍
多発性骨髄腫

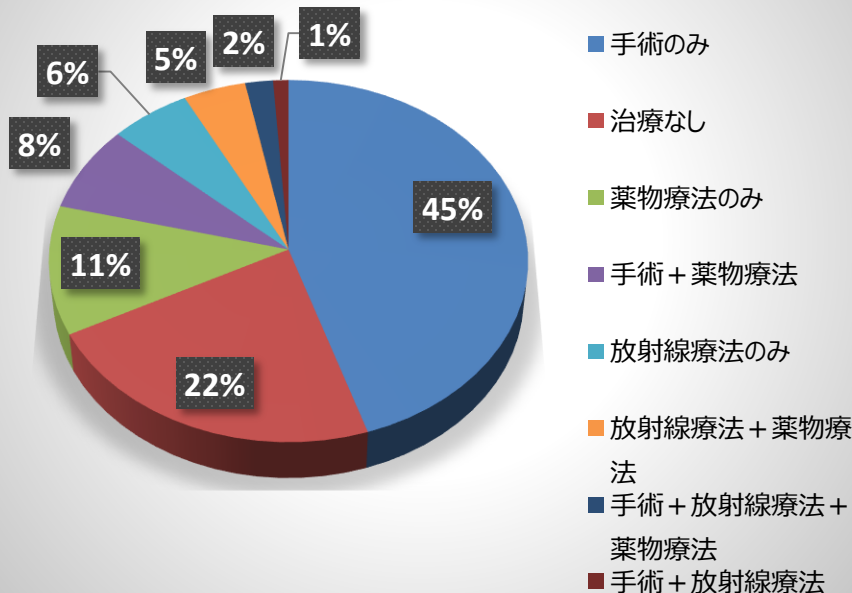
【 2017年症例初回治療状況 】

がんの治療ではその種類や進行度に応じて、手術・放射線治療・薬物療法（抗がん剤やホルモン剤など）を単独もしくは複数の治療法を併用する集学的治療を行っています。

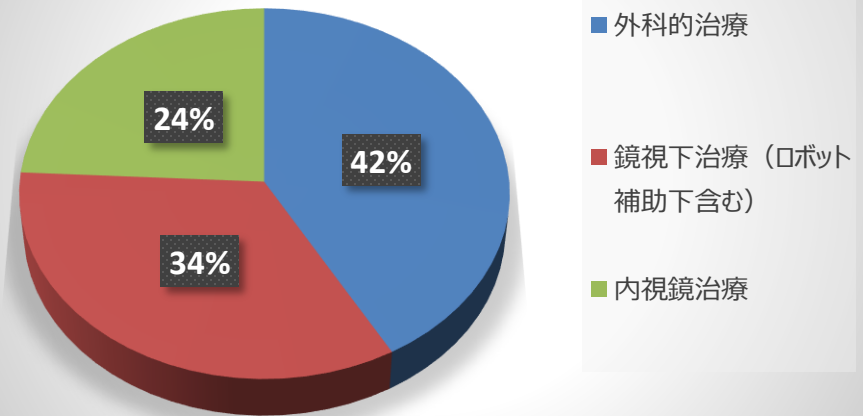
2017年初回治療実績としては手術のみの患者さんが45%と最も多く、次いで治療なしが22%で2番目に多いのですが、ここで示す治療なしの中には、すでに他病院で治療が済んでいる場合や経過観察中の患者さんも含まれています。

手術治療の内訳としては外科的治療が最も多く、2番目に多い鏡視下治療にはロボット支援下手術（ダ・ヴィンチ手術）も含まれています。3番目の内視鏡手術にはESD、EMR、TUR-BT等が含まれています。

初回治療状況



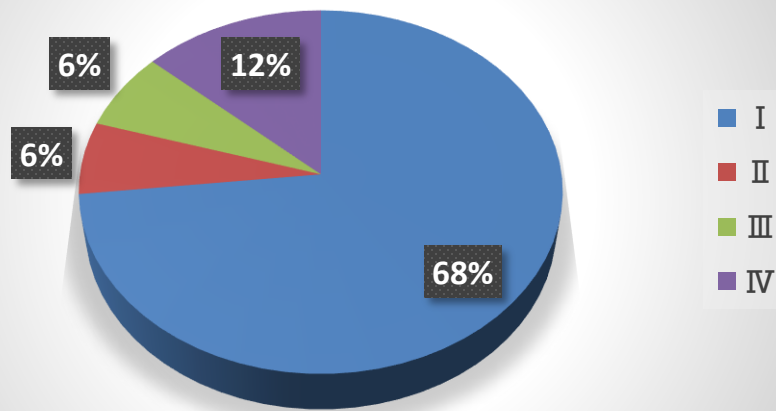
手術治療の内訳



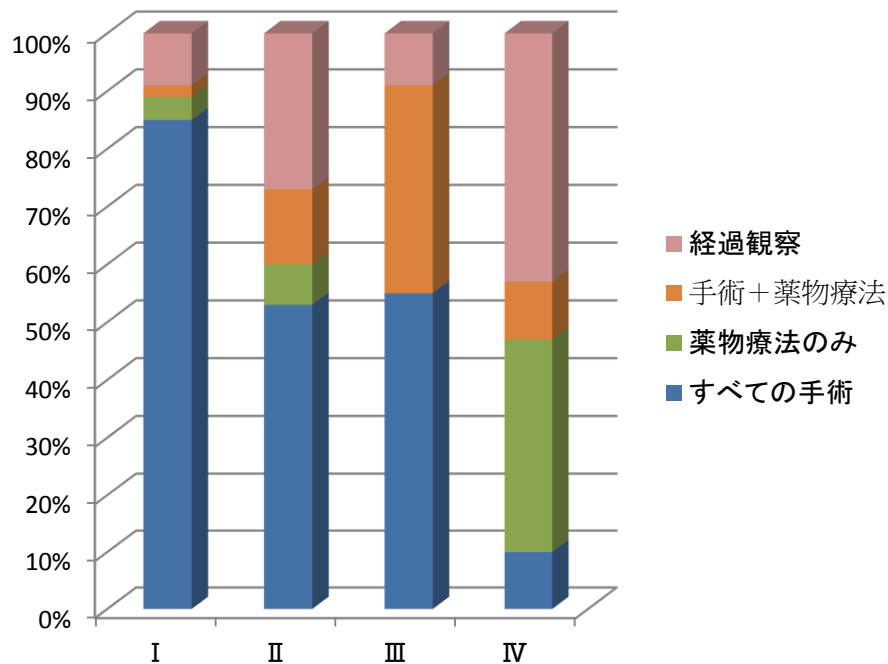
【胃がんの病期分類と治療方法の割合】

- 胃がんUICC治療前ステージ割合はI期の患者さんが68%と圧倒的に多く、がんが早期に発見されていると考える事ができます。
- 手術の内訳として、I期は内視鏡手術が60%以上、鏡視下手術は20%以上となっています。
- II期以上の場合は開腹手術が多く選択され、薬物療法も併用されています。
- 進行胃がんには薬物療法を併用した治療が多く、早期胃がんには腹腔鏡手術・内視鏡手術合同手術（LECS）が行われています。

胃がんUICC治療前ステージ別割合



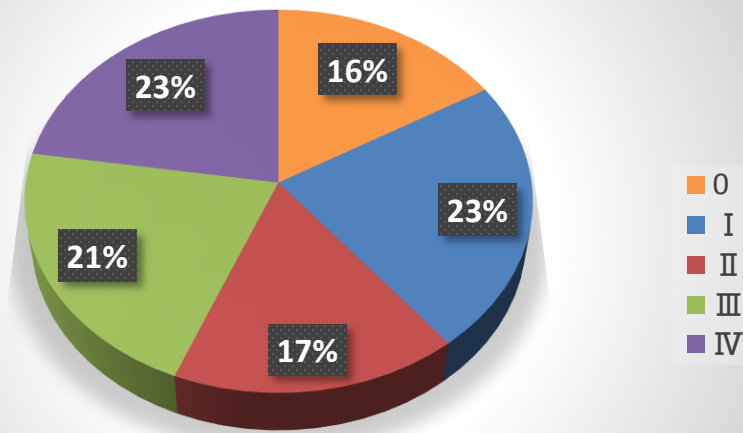
胃がんステージ別治療方法別割合



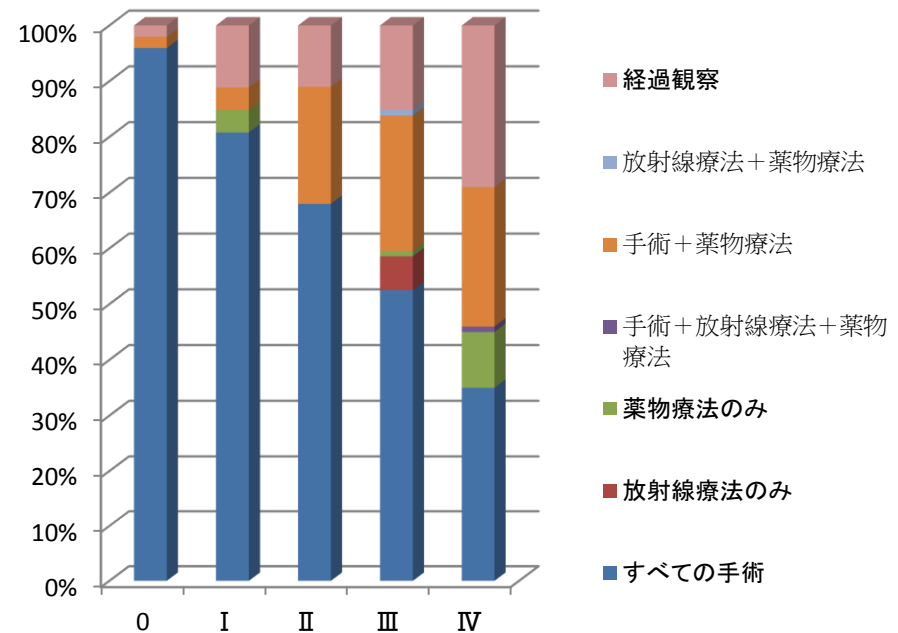
【大腸がんの病期分類と治療方法の割合】

- 大腸がんUICC治療前ステージ割合は、I期とIV期がともに23%と最も多くなっています。
- 大腸がんの0期の場合は、ほぼ全ての患者さんが内視鏡手術（ESD、EMR）で治療を行っています。
- II期以上の場合は主に鏡視下手術、開腹手術と薬物療法を併用して行っています。

大腸がんUICC治療前ステージ別割合



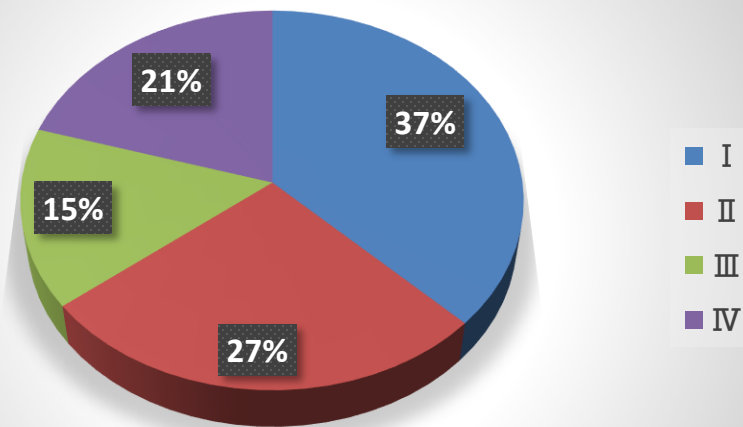
大腸がんステージ別治療方法別割合



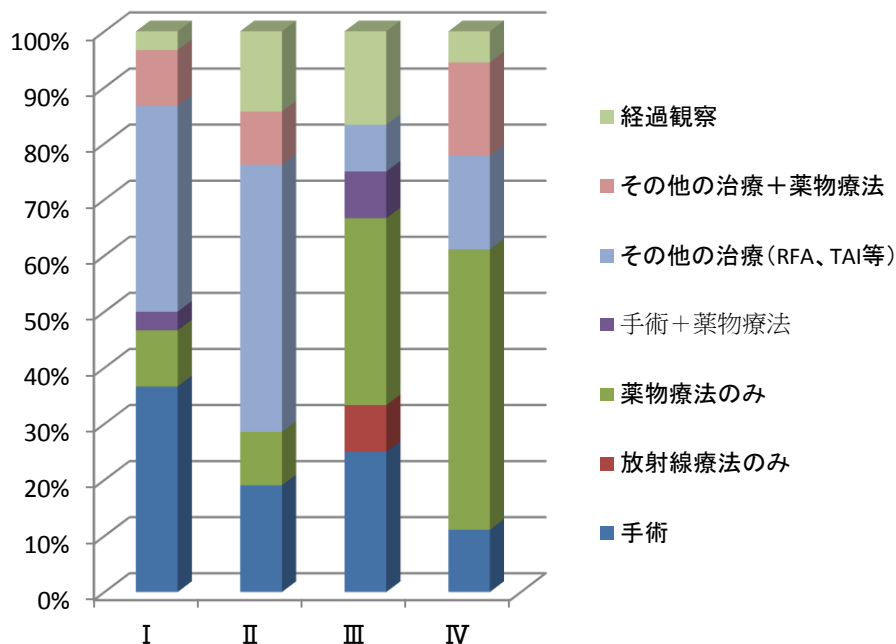
【肝がんの病期分類と治療方法の割合】

- 肝がんUICC治療前ステージ割合はI期が37%で最も多く、手術や薬物療法のほかにラジオ波焼灼術、動脈化学塞栓術、肝動注化学療法、分子標的治療薬の治療を中心に行っています。
- その他の治療にはRFA（ラジオ波焼灼療法）やTAI（肝動脈化学療法）を含みます。

肝がんUICC治療前ステージ別割合



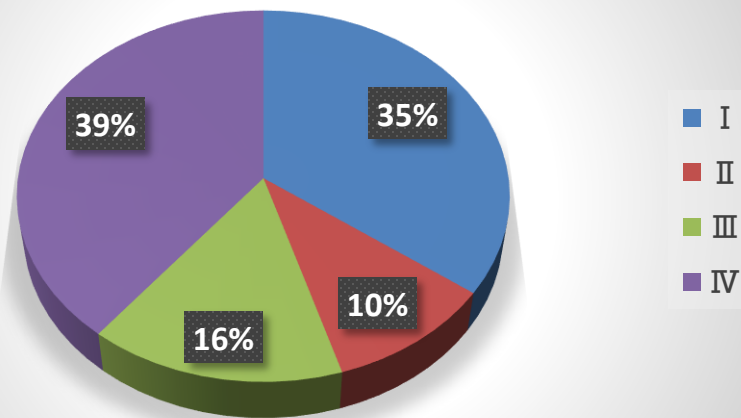
肝がんステージ別治療方法別割合



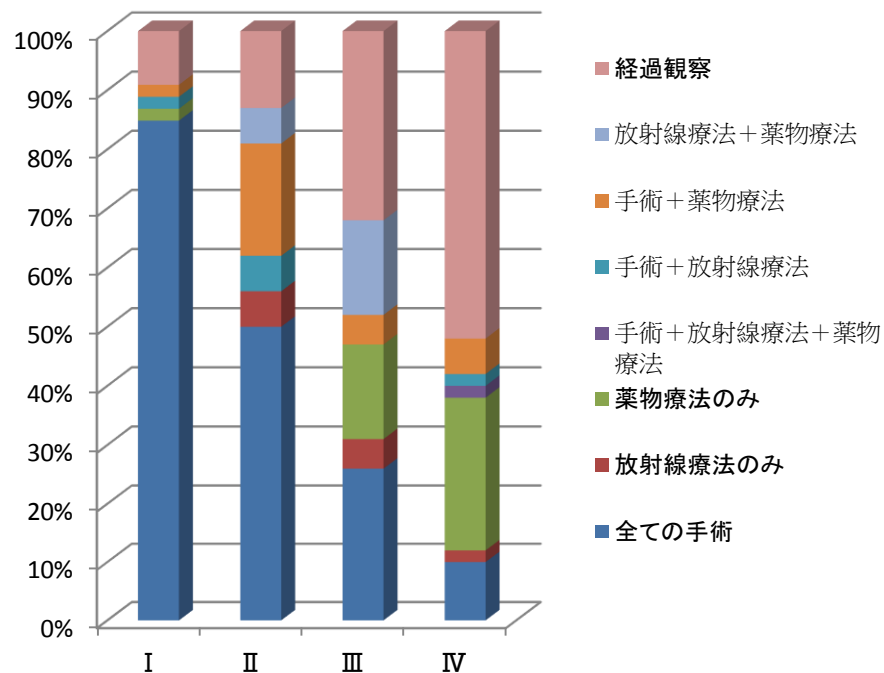
【肺がんの病期分類と治療方法の割合】

- 肺がんUICC治療前ステージ割合はⅣ期が39%と最も多く、次いでⅠ期が35%となっています。
- 肺がんの手術はⅠ～Ⅲ期までの場合は胸腔鏡下手術の適応が最も多くなっています。
- 薬物療法には抗がん剤や分子標的治療薬を使用して治療しています。

肺がんUICC治療前ステージ別割合



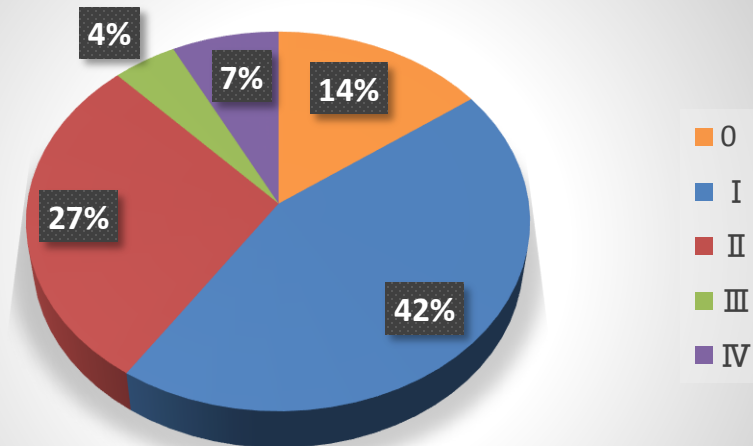
肺がんステージ別治療方法別割合



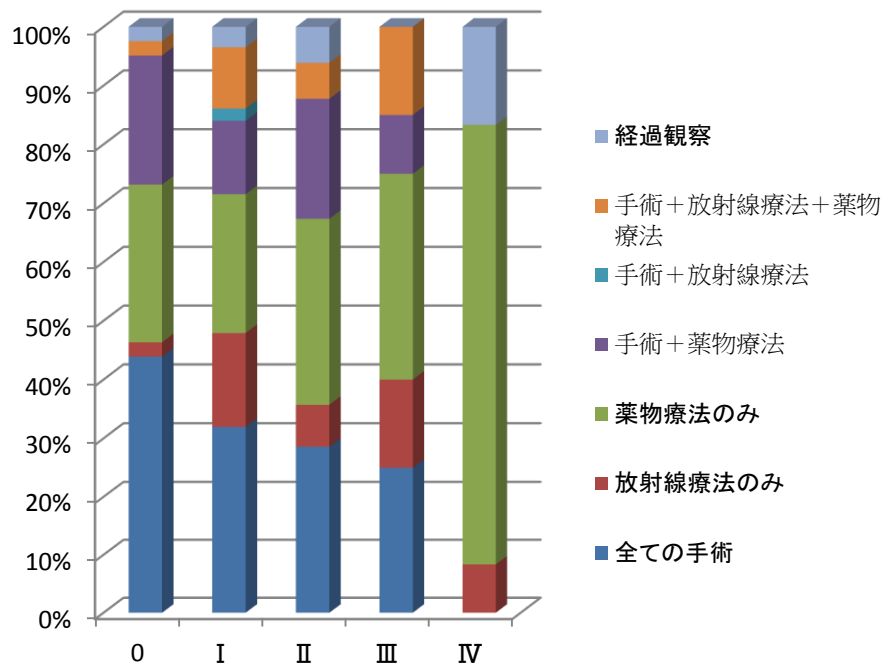
【乳がんの病期分類と治療方法の割合】

- 乳がんUICC治療前ステージ割合はI期が42%で最も多く、0期の14%からみても比較的早期にがんが発見がされていると推測されます。
- がんの進行度に応じ、集学的治療（薬物療法、放射線治療、手術）を多く行っています。
- 薬物療法には抗がん剤、ホルモン剤、分子標的治療薬があり、早期から手術と併用して行う治療が多いです。

乳がんUICC治療前ステージ別割合



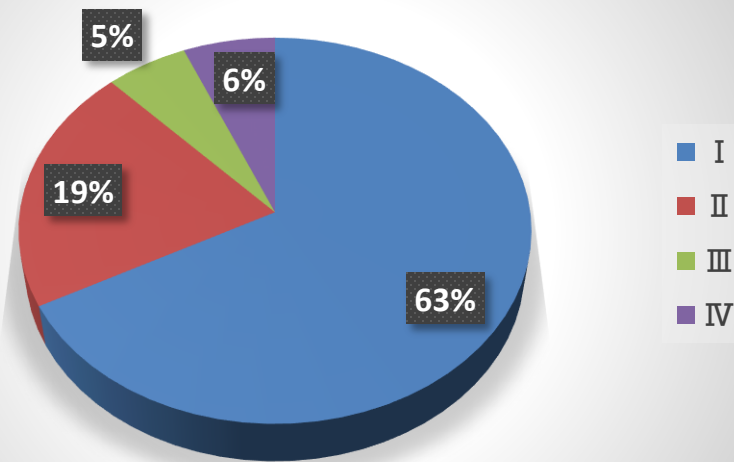
乳がんステージ別治療方法別割合



【前立腺がんの病期分類と治療方法の割合】

- 前立腺がんUICC治療前ステージ割合は、I期が63%と圧倒的に多く、がんが早期に発見されていると考える事ができます。
- 治療内容は、小線源密封療法（ブラキセラピー）を多く扱っています。
- 手術のほとんどがロボット支援下手術（ダ・ヴィンチ手術）で行われ、患者さんの負担（侵襲）が少なくなるよう開発された、最新の低侵襲手術が可能です。

前立腺がんUICC治療前ステージ別割合



前立腺がんステージ別治療方法別割合

